

November 17, 2021

【前日の為替概況】米 10 月小売売上高+1.7%でドル上昇、対円 114.85 円、対ユーロ 1.1309 ドル

16日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は114.82円と前営業日NY終値(114.12円)と比べて70銭程度のドル高水準。10月米小売売上高が予想を上回る伸びとなり、堅調な消費動向が確認されると、米長期金利の上昇とともにドル買いが優勢となった。10月米鉱工業生産指数や11月NAHB住宅市場指数など、他の経済指標も良好な結果となりドル買いを促し、一時114.85円と2017年3月以来約4年8か月ぶりの高値まで上値を伸ばした。

ブラード米セントルイス連銀総裁は「来年は2回の利上げが必要になる」との考えを改めて示したほか、「テーパリング(量的緩和の縮小)のペースを毎月150億ドルから300億ドルに増加すると、来年第1四半期末に利上げへの扉が開かれる」などと述べた。

ユーロドルは5日続落。終値は1.1320ドルと前営業日NY終値(1.1368ドル)と比べて0.0048ドル程度のユーロ安水準だった。この日発表の米経済指標が軒並み予想を上回ったことでドル全面高の様相が強まり一時1.1309ドルと昨年7月以来の安値を更新した。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.64%台まで上昇したことも相場の重し。

主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時95.98と昨年7月以来の高値を付けた。

ユーロ円は6営業日ぶりに反発。終値は129.98円と前営業日NY終値(129.74円)と比べて24銭程度のユーロ高水準。ただ、NY市場に限ればドル円とユーロドルの値動きの影響を同時に受けたため、相場は方向感が出なかった。

トルコリラは急落した。18日のトルコ中銀の金融政策委員会(MPC)で追加利下げ観測が高まる一方、米国では利上げ前倒し観測が高まっているためリラ売り・ドル買いが優勢に。対ドルでは一時10.4426リラと史上最安値を更新した。リラ円も節目の11.00円を下抜けて一時10.93円と過去最安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米 10 年債利回りとダウ平均上昇で 115 円台へ続伸か

本日の東京外国為替市場のドル円は、米10年債利回り1.63%台を受けたドル買いとニューヨーク株式市場の上昇を受けたリスク選好の円売りで115円台乗せを目指す堅調推移が予想される。ドル円の115.00円にはドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、本日のNYカットオプションが控えている。

現在のドル円の実質実効為替レートは70円台まで低下し、黒田日銀総裁が2015年6月に125円付近で「実質実効為替レートを基準にすれば、現在のドル円レートは相当な円安水準であり、これ以上の円安水準はありそうにない」と警告した水準まで低下している。しかし、黒田日銀総裁は先日の会見で「現時点で若干の円安だが、これが『悪い円安』とか日本経済にとってマイナスになるということはない。今の円安水準が日本経済に総合的にプラスであることは確実だ」と述べ、115円付近の円安を容認している。

8時50分に発表される日本の10月の貿易収支は、季節調整前3100億円の赤字、季節調整済6092億円の赤字と予想されている。予想通りならば、3か月連続の貿易赤字(8月:-6371億円、9月:-6227億円)となり、ドル円の最近の堅調な展開を裏付けることになる。しかし、対米貿易収支は年初来黒字基調で、1-9月では4兆2556億円の貿易黒字を計上しており、昨年同時期の3兆2652億円の貿易黒字から約1兆円の黒字幅増加となっている。4月に公表された米財務省の為替報告書では、日本は監視対象国となっているものの、今回の萩生田経済産業相とレモンド米商務長官の会談で「日米商務・産業対話パートナーシップ」の設立で鉄鋼・アルミニウムの輸入関税が減額・撤廃される可能性が高まっており、日米貿易不均衡の拡大は材料視されないのかもしれない。しかし、昨日の米中首脳会談では、バイデン米大統領が習中国国家主席に対して、第一段階の通商コミットメントの履行を求めたとのことで、米国の貿易赤字が過去最大規模に膨らみつつある中、予断を許さない状況は続くことになる。

また、バイデン米大統領は「FRB議長職に関するニュースを今後4日前後で発表する」と述べており、今週末に向けて関連ヘッドラインには引き続き要警戒となる。バイデン米大統領は、パウエルFRB議長を続投させるかどうか検討しているほか、進歩派の議員が支持しているブレイナードFRB理事と面談しており、次期FRB議長候補はこの両者に絞られている。パウエルFRB議長は利上げに関して忍耐強さ(patience)を強調しているが、ハト派の急先鋒であるブレイナードFRB理事はより忍耐強いと思われることで、ブレイナード第17代FRB議長誕生ならば、ドル売り要因となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 10月貿易統計(通関ベース、予想：季節調整前3100億円の赤字、季節調整済6092億円の赤字)
- 08:50 ◎ 9月機械受注(予想：船舶・電力除く民需 前月比1.8%/前年比17.4%)

<海外>

- 09:30 ◎ 7-9月期豪賃金指数(予想：前期比0.5%)
- 10:20 ◎ ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、ビデオメッセージ
- 16:00 ◎ 10月英消費者物価指数(CPI、予想：前月比0.8%/前年比3.9%)
- 16:00 ◎ CPIコア指数(予想：前年比3.1%)
- 16:00 ◇ 10月英RPI(予想：前月比0.8%/前年比5.7%)
- 17:00 ◎ 10月南アフリカCPI(予想：前月比0.2%/前年比5.0%)
- 18:00 ◎ 欧州中央銀行(ECB)、金融安定報告書を公表
- 19:00 ◇ 9月ユーロ圏建設支出
- 19:00 ☆ 10月ユーロ圏消費者物価指数(HICP)改定値(予想：前年比4.1%)
- 19:00 ☆ 10月ユーロ圏HICPコア改定値(予想：前年比2.1%)
- 20:00 ◇ 9月南アフリカ小売売上高(予想：前年同月比▲0.2%)
- 21:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 22:30 ◎ 10月カナダCPI(予想：前月比0.7%/前年比4.7%)
- 22:30 ◎ 10月米住宅着工件数(予想：158.0万件、前月比1.6%)
- ◎ 建設許可件数(予想：163.0万件、前月比2.8%)
- 23:00 ◎ マン英中銀金融政策委員会(MPC)委員、講演
- 23:00 ◎ シュナーベル ECB 専務理事、講演
- 23:10 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 18日 00:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 18日 01:00 ◎ ボウマン米連邦準備理事会(FRB)理事、講演
- 18日 01:00 ☆ 7-9月期ロシア国内総生産(GDP)速報値(予想：前年比4.5%)
- 18日 01:20 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、ウォーラーFRB理事、講演
- 18日 02:40 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、講演
- 18日 03:00 ◎ 米財務省、20年債入札
- 18日 06:05 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演
- 18日 06:10 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

16日 06:49 バーキン米リッチモンド連銀総裁
「FRBは忍耐強いがインフレに関しては行動をためらうことはない」
「サプライチェーンの問題は来年にかけて続く予想」

16日 09:34 豪準備銀行(RBA)議事要旨
「インフレ目標を達成するまで金利を引き上げない」
「高度に支援的な金融環境を維持することにコミット」
「インフレ見通しのリスクは上向きにシフトした」
「理事会は忍耐強くある用意がある」

16日 09:57 バイデン米大統領
「米中関係は世界にとって非常に重要」
「各国はルールに従う必要がある」

17日 05:30
「FRB議長職に関するニュースを今後4日前後で発表する」

16日 10:00 習中国国家主席
「米中は意思疎通と協力強化が必要」
「米中は発展に向けて極めて重要な段階にある」
「平和という目的をともに前進させるべきだ」

16日 11:36 ロウ豪準備銀行(RBA)総裁
「最初の利上げは2024年より前になりそうにない」
「インフレ目標の達成には依然として道のりがある」
「CPI目標への進展が早まれば2024年より前の利上げもあり得る」

16日 16:08 エルバン・トルコ財務相
「物価安定は持続的な成長にとって必要不可欠」
「トルコはインフレと戦うことを決意」
「残念ながらインフレは我々が希望する水準ではない」

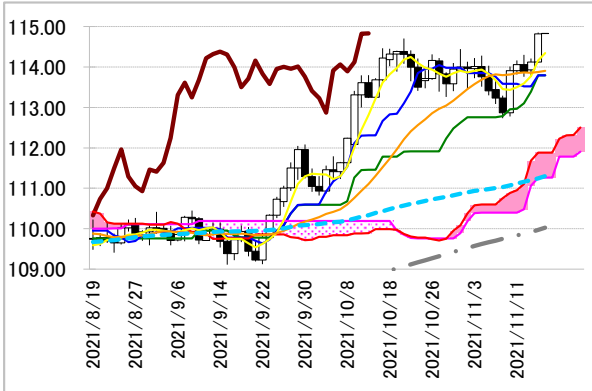
16日 17:34 ブレマン・リクスバンク(スウェーデン中銀)副総裁
「金利は見通しの範囲内で利上げの方向に向かっていくというのが私個人の意見」
「インフレは一時的であることにはかなりの自信がある」

16日 22:54 ブラード米セントルイス連銀総裁
「コアPCEはかなり高い」
「FRBは今後数回の会合でよりタカ派の政策に向けて取り組むべき」
「テーパリングを月額300億ドルに増加すると、2022年第1四半期末に利上げへの扉が開かれる」

17日 01:26 イエレン米財務長官
「インフレは2022年下期までに低下するだろう」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

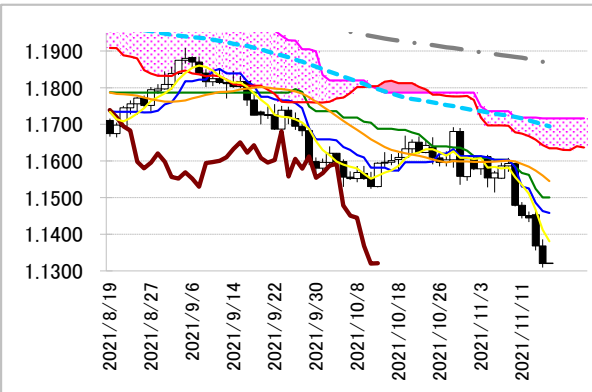


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線と同値、運行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	116.87(2017/1/11 高値)
レジスタンス 1	115.51(2017/3/10 高値)
前日終値	114.82
サポート 1	113.79(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	113.26(10/28 安値)

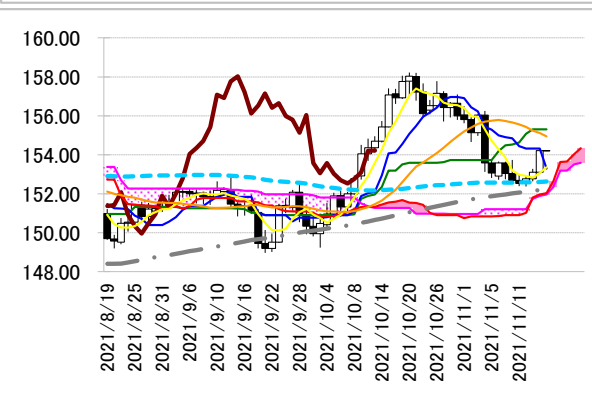


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、運行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。5手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1459(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1320
サポート 1	1.1255(2020/7/10 安値)

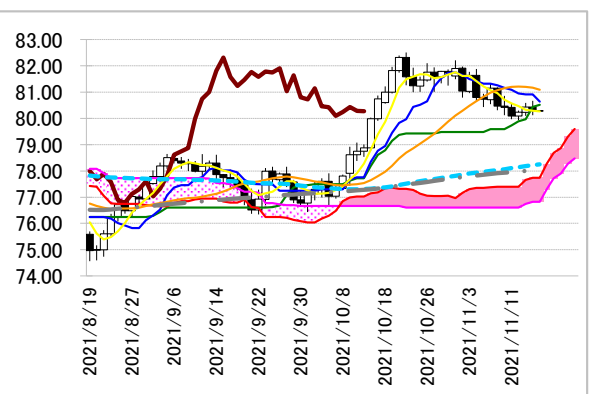


<ポンド円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、運行スパンは実線を下回り、雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開。しかし、3手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	155.30(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	154.21
サポート 1	153.30(日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、運行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。しかしながら、孕み線で反落し、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	80.64(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	80.29
サポート 1	79.94(11/12 安値)

